



かぜくも

いわき支援学校

地域支援センター通信 No. 30

R6. 3. 8 発行

生涯にわたる支援充実のために

教頭 菅野 亨

子どもたちが将来、地域に支えられ、生き生きと生きていくためには、学校や関係機関との連携による地域の支援体制の整備と充実が必要となります。本校では「地域支援センターかぜくも」を設置しており、各学部に特別支援教育コーディネーターを配置し、特別支援に関する教育相談、地域の特別支援充実のための学校等支援、福祉関係者や行政と連携した支援体制づくりなど、いわき地区の支援体制強化を目的に努力を続けているところです。

この取り組みは、地域の支援力を高めることにつながり、障がいのある子どもたちが卒業後、居住地において必要な支援を継続して受けることができるようにするために大切な役割を担っています。子どもたちの将来が明るいものとなるよう、少しでも将来への不安が軽減できるよう、小さなうちから積極的に「地域支援センターかぜくも」をご活用ください。



「曙光」

教頭 菅家 洋平

毎朝、東の空を昇る朝日が校舎を明るく輝かせるのを見てとても清々しい気持ちになります。今日、教育をめぐる言説は決して明るいものばかりではありません。世界規模で進行する社会の急激な変化は教育にもするどく影響を与えています。教育的課題は地域によって、また歴史的な経緯を背景にしてさまざまであり、もちろん求められる教育の力も異なってきます。教育には指導と支援という用語が一般に用いられます。私自身、指導という言葉に馴染み、教員生活を送って参りました。行く先を『指』し示し、かの地へ『導』く」という語と「その人を『支』え、『援』助する」というタームはどちらも教育の場においては欠かすことのできない要素であります。先行きが不透明で見通しが立ちにくいこの時代に、より重要となるのは支援の語であると思います。さらに支援者もまた支援されて立っているという関係性の自覚も強調したいと思います。地域によって支えられている本校であります。その自覚をもって、当センターはいつも地域を明るく照らす太陽のように地域の子どもたちを支援する存在でありたいと考えます。

乳幼児の保護者へ向けた学習会

かぜくも教室

未就学児のお母さんを対象に、子どもたちの育ちを見守るための勉強会「かぜくも教室」を開催しました。今年度は5回実施し、子どもと福祉サービス、育ちの見守り方などをテーマに話を聞いたり、先輩お母さんの話を聞いたりする会を行いました。お母さん方からは、「同じ悩みをもつお母さん同士の情報交換や日頃の悩みを共有でき、参加してよかった」「我が子の将来に希望が持てました」などという感想をいただきました。



特別支援学校で使われている教材を紹介します



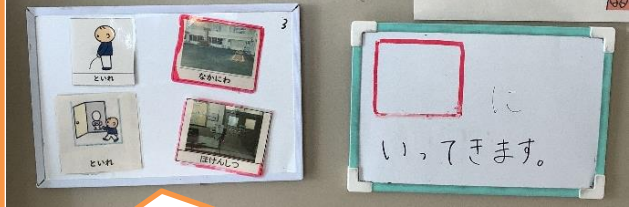
「よくみて わたろう」
衝突事故を防ぐための、
「とまれ」の表示です。



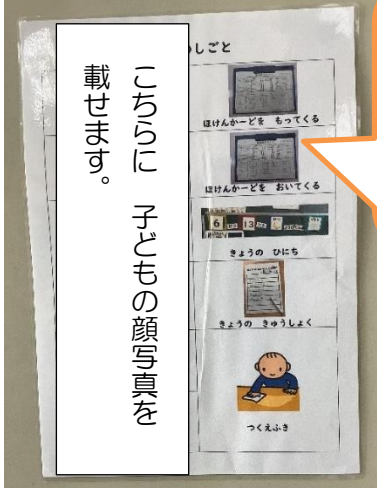
「かぞえよう せんたくばさみ」
運動で走る回数分、洗濯ばさみを裾につけます。一周走ったらバケツに1つ洗濯ばさみを入れ、なくなったら終わりです。モップ掛けなど数えるときにも使用します。



「こえの ものさし」
場所や状況に合わせた声の大きさを、わかりやすくイラストにしてあるものです。



「～に いきますカード」
自分が行く場所を指さしたり、「～にいきます。」と伝えるカードです。発語のある児童の手立てにもなります。



「かかりの しごと」
自分や友達の係がわかるように、顔写真やお仕事のイラストなどが表示されています。

「どんな きもちかな？」
気持ちと言葉を一致させる教材です。気持ちを表すトレーニングにもなります。



地域支援センターかぜくも 活動状況

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ○幼・保・小・中・高の先生方の研修支援 | ○早期教育の充実 |
| ・ミニセミナー (218名) | ・かぜくもひろば (40名) |
| ・講演会 (46名) | ・かぜくも教室 (30名) |
| ・中高情報交換会 (20名) | ・かぜくも相談〈就学前〉 (48名) |
| ○かぜくも相談 (154件) | ・学校見学会 (61名) |
| ・電話、来校相談 (160件) | |
| ・でかける支援 (21件) | |

相談支援の依頼については、
幼稚園、保育園・学校等は管理職の先生から、事業所等は管理者の方から、
いわき支援学校 34-3806(教頭) へお願いします。
また、地域支援センター直通の電話080-7512-8323でも相談が可能です。学童保育・サービス事業所等からの相談も可能ですので、ぜひ地域支援センターをご活用ください。